



准フォレスター研修後期2回目
研修初日(H24.9.10)

①
前期研修から約2か月ぶりに、皆さん元気に再会。そして後期研修スタートです。プロセスマネージャーの藤野さんから、この2ヶ月間どうしてましたか？との問いかけに、この間の活動や後期研修に向けた準備の苦労話など、アイスブレイクも兼ねて共有します。

日々の多忙な業務の中、皆さん後期研修に向けての準備などお疲れ様です。



②
藤野PMIによる、研修目標の再確認です。後期研修において特に重視するのは「森林・林業を地域の振興につなげる将来ビジョンを構築できる能力を身につける」という部分です。

これを達成するために、グループ演習を中心に体験しながら身につけていくというカリキュラムです。

うしろのホワイトボードには、前期の最後に皆さんが描いた決意表明！思い出したかな！？



③
続いて林野庁の鶴園講師より、前期研修をスライドで振り返りながら、そこで学んだことのポイントを思い出していきます。前期研修を踏まえながら後期に臨む為の頭の整理、そしてこれからの4日間に入っていくためのアイドリングの時間と言えます。

引き続き、さっそく最初のグループ演習の説明に入っていきます。



④
後期はほとんどの時間がグループ演習です。前半に行う「森林資源循環利用構想策定演習」は、1000HA程度のまとまりをもった団地を対象として、市町村森林整備計画を念頭に、林業専用道の整備並びに10年間における間伐実施計画を大局的に検討するという内容です。

グループでの作業に入る前に、図面や収支計算のためのエクセルファイル、発表用雛型などについて関東森林管理局販売課 板垣講師より説明します。



⑤
班ごとの作業に入り、まずはこの地域の森林整備を効果的に進めていくために必要な林業専用道の新設計画を大まかな線形で考えていきます。

この研修では、期間をとおして班ごとに分かれたアイランド形式の座席配置となっており、グループで協力して作業を進めていきます。



⑥
路網整備と同時に検討する10年間の間伐実施計画も念頭に、効率的な材の搬出や販売戦略も踏まえて理想的な道の配置はどのようなものか、全員が意見を出し合いながら考えていきます。

翌日には、実際にこの現場を確認に行きますので、限られた時間内に見ておきたい場所やチェックすべきポイントを整理して備えるという準備も必要です。



研修2日目(H24.9.11)

①
2日目の午前中は、初日に机上検討を行った場所の現地確認を行います。
約1000HAを細かく見て回ることにはできませんが、主に既設林道から各班が考えた新設路線取り付け位置の地形条件を確認したり、区域全体を大まかに捉えて林業専用道の配置や作業システムを再検討するため、山を見ながら考えようというねらいです。
出発前に、防蜂網の説明など安全面の連絡事項並びに行程や持ち物のアナウンスを行い、バスに乗り込みます。



②
既設の林道上を歩きながら、自分たちが考えた新設路線の分岐箇所などを確認しています。図面だけの情報では読み取れない地形の状況を確認しつつ、「ここで尾根に向かって上がれそう」「沢を渡るならこのへんかな」などと相談しているところ です。

今回は、この周辺に見られる「列状間伐」実施後の林分を見ながら、森林施業についての議論にも花が咲きました。



③
林道法面の上から区域遠景の一部を垣間見ることが出来ます。もちろん全体を遠望出来るに越したことはないのですが、見えない部分は図面や周辺の地形と照らし合わせて推測するしかありません。

(准)フォレスターには、要所をおさえて林分状況や地形の特徴を把握し、場合によっては図面と部分的な現地確認だけでも適切な判断が出来る能力も求められます。まさに“勘どころ”を身につける



④
現地から戻ると、実際に見てきた状況を踏まえて林業専用道の線形を見直していきます。「ここは無理だったからこちらに回そう」「この地形だと、車両系の作業システムでいけるのではないか」といった意見を出し合い、班としての構想をまとめる作業です。

付箋をペタペタ貼って情報を整理しているようです。



⑤
机上検討、現地確認を経て作られた林業専用道新設計画案の図面です。間伐予定小班の配置や間伐材をストックする中間土場の位置を考慮して、材の搬出と販売を見据えた路網配置と整備年度を検討しました。

今回は、10年間というスパンの路網整備と間伐実施を計画し、さらにその後も森林資源を循環的に活用するという観点から、理想的な路網配置を考えることを重視しました。



⑥
残すは、翌日3日目の午前中に行う発表に向けて、パワーポイント資料と図面の仕上げ作業です。分かり易く、聞き手の理解を促すインパクトのある資料作りに皆さん真剣です。

一人では難しいことも、班員が知恵を出し合うことでチームとしての構想が形になっていく過程です。



研修3日目(H24.9.12)

①
3日目は朝一からいよいよ発表です。
「森林資源循環利用構想策定演習」の総仕上げとして、各班が考えた構想をこの地域の将来にわたる森林林業ビジョンとして提案します。

発表側はフォレスターチーム、聞き手は地元市長と仮想して、提案に対する理解と協力を求めるためにプレゼンをするという設定です。

前期に学んだプレゼンテーション技法が活かされます。



②
聞き手は、全員が市長になったつもりで質問や意見を出し、発表者はこれに応えます。

役になりきって行う“ロールプレイング形式”は、まるで実際の説明会のような雰囲気となり、今後の実務に役立ちそうです。

6班全ての発表を聞き質問を考える中でも、他の班との違いや別の視点に気づきくことで、新たな知見を蓄えられるのではないのでしょうか。



③
各班の発表後に講師からの講評を行います。

何のためにこの演習を行ったのか、そして実際の准フォレスター活動にどのように活かしていくべきなのか、などについてこの時間にしっかりと受講者皆さんの腑に落としてもらうことが重要です。

鶴園講師の講評、田中講師・松本講師の市長役のコメント、藤野プロセスマネージャーによるまとめの様子



④
さあ、午後からは次のグループ演習が待っています。

今度は「市町村森林整備計画演習」と題して、班編成を原則的に県ごとの集まりに変え、各班の代表者が準備してくれた各担当地域の実物の計画書をもとに演習を行います。

林野庁の間島講師より説明、の前にじゃんけんアンケート。皆さん宿題の準備度合いはどうですか？お～、群馬県チームは現地確認までやって自信たっぷりのパー！



⑤
この演習では、前期後期の研修内容を市町村森林整備計画に落とし込むという狙いがあります。

具体的には現行の計画を再検討し、より実効性が高く、魂のこもった計画にするためにどこをどう見直すべきかについて議論します。

作業中には、講師陣がアドバイスをしながら各班を回っています。



⑥
この日は、前後期通じて沼田最後の夜！
前期とは場所を変えて、意見交換会を催しました。ギューギュー詰めの店内ですが、一体感がさらに深まった！？

この研修が終わってからも、同じ釜の飯を食った仲間として、何かで困ったときには組織や地域を超えて相談し合うことのできる貴重な横のつながりが出来たらならば本当に有意義なことだと思います。



研修最終日(H24.9.13)

① 最終日の朝からは、発表です。この演習の発表は、森林所有者など地域の森林関係者を対象とした地元説明会を想定して行いました。

市町村森林整備計画の再検討、見直し案についての考え方、根拠などを説明します。

前半の演習とは違い各班(県)ごとに題材が異なるため、地域の特性や森林資源の状況、林業を取り巻く背景にも多様な実態があり、驚きや感心など皆さんの反応も様々です。



② 今回も地元の森林所有者や森林組合職員、役場の担当者などのロールプレイによる質疑応答です。

質疑応答では想定外の意見が出てくることは往々にしてありますが、咄嗟にメンバー内で短く打ち合わせて答弁。

落ち着いて対応できるようになるには“場数を踏むこと”が何より大切ようです。



③ この演習でも発表後には、関係する講師陣一人ひとりから講評を行います。従前の金太郎館的な計画のあり方を、これからどう変えていけばいいのか。実務的な確認のポイントや考慮すべき要素、大切な着眼点などなど示唆に富んだ言葉が送られました。

東大の白石講師、森林総研の田中講師はスライドとともに、林野庁間島・鶴園講師コメントの様子



④ 研修最後のコマは前期後期全てを振り返り、受講者各々がこの研修で何を学んだのか、これから何をすればいいのかということ、ふりかえりシートに記入して確認し、班内で共有しました。

中身の濃い9日間、色んなことがありましたね。

引き続き「目指すフォレスター像」について各人が考えるポイントを出し合い、班内で話し合いました。



そして最後の共同作業として、班でまとめた「目指すフォレスター像」を一人A4一枚のKP法により、全員の前で宣言します。この言葉たちが今後の活動のよりどころになるのではないのでしょうか。



⑥ 閉講式。講師陣より足掛け9日間にわたる研修のねぎらいとともに、今後に向けた皆さまへの期待を込めた熱いメッセージの言葉で締めくくりました。



これで、沼田にて行うブロック研修は終了となり、今後は地域ごとに分かれて行う通信研修と最後に東京で集合研修を行います。もう一息といったところですが、まずは皆さん本当にお疲れ様でした！